

質問30分 質問・答弁60分

一般質問通告書

通告番号

入間市議会議長 様

14番

松本義明

平成27年5月25日

質問事項	質問要旨	答弁を求める者
公共交通	社会インフラとしての公共交通網の再整備について	市長 市民部長
	1. 市内の公共交通網に対する現状認識	
	2. 入間市公共交通庁内検討会議報告書	
	(1) 公共交通網の実態把握	
	①交通空白地域・交通不便地域 ②交通動向調査	
	(2) 「社会資源の活用」	
	①検討に至った背景 ②活用による可能性	
	(3) 「社会資源の活用」に向けた社会実験	
道路行政	①必要性の認識 ②課題と今後の方向性	市長 都市建設部長 " "
	上藤沢・林・宮寺間新設道路整備事業について	
	1. 期待される効果	
	2. 現在までの進捗状況	
	3. 関係両市の連携状況	
4. 課題と今後の予定		

一般質問要旨

平成 27 年 5 月 25 日

松本義明

「社会インフラとしての公共交通網の再整備について」

本格的な高齢社会を迎え、日常生活の移動手段として公共交通網の再整備の必要性が高まってきております。自家用車が運転できなくなったら、お買い物や病院など日常生活を送る上で必要不可欠な場所や機関へアクセスができなくなってしまうという不安を抱えている高齢者の方も多くいます。日常生活を支えていくための公共交通網の整備は喫緊も課題であり、まさに社会インフラとして行政が責任をもって維持・管理していく必要があります。

1. 市内の公共交通網に対する現状認識

先日、新光地域の一部を網羅しているバス路線が撤退する予定であるとの報道がありました。採算が合わなくなった民間バス路線の廃止は、山間部や過疎地の課題、本格的な人口減少を迎える数十年後の課題ではなく、入間市で起こっていることであります。今後、更に人口減少が進む中で、公共交通を取り巻く状況も変化していくことが予想されます。これらの実態も踏まえて市内の公共交通を取り巻く現状についてどのように認識しているのでしょうかお伺いします。（乗り続けなければバス路線は廃止する可能性。）

また、公共交通網の再整備は保健・福祉施策、定住促進、観光行政、市街地活性化施策、公共施設の統廃合等、他の重要施策や今後の政策課題とも関連が深いことから最優先で取り組むべき課題であると考えます。公共交通網の再整備は施策の優先順位が高いと考えますがどのように認識しているのでしょうかお伺いします。

さらに、これらの理由から公共交通網の再整備は喫緊の課題であり、行政として早急に現状分析や関係者との交渉など複雑な作業が求められます。また、行政、住民、民間会社の三者の合意形成が必要であり、その合意形成を主導的に進めていくのは行政の役割であります。これらに対応していくためには、まずは行政としての体制づくりに取りかかるべきであると考えますがどのように認識しているのでしょうかお伺いします。

2. 入間市公共交通庁内検討会議報告書

昨年3月から庁内に検討委員会が設けられて、入間市の公共交通における基本的方向が検討されてきました。その検討事項については、先日、全員協議会で入間市公共交通庁内検討会議報告書として示されました。入間市公共交通庁内検討会議報告について何点かお伺いします。

(1) 市内の公共交通網の実態把握 ①交通不便地域・交通空白地域 ②交通動向調査

平成26年度市民意識調査によれば、住みにくいと答えた方の理由、定住しないで市外へ移るつもりであると答えた方の理由として最も多かったのが交通の利便性が確保されていないことでありました。市民に選ばれ定住していただくためには、まずは本市の公共交通について実態把握と現状分析を行うべきであると考えます。そこで、交通不便地域・交通空白地域の実態調査の結果について、今年度中に行われる交通動向調査の概要とその活用についてそれぞれどのように考えているのでしょうかお伺いします。

(2) 「社会資源の活用」 ①検討に至った背景 ②活用による可能性

公共交通網の再整備に向けて検討されている交通手段としては、鉄道、路線バス、タクシー、デマンド交通、社会資源の活用（企業のバス等）があります。そこで新たな手段である社会資源の活用についてお伺いします。市内には、職員、従業員及び利用者のためにショッピングセンター、工場等事業所、病院、学校、遊戯施設等と鉄道駅等を結ぶバスやワゴン車が多数運行しており、これらを用いるのが社会資源の活用であります。今ある社会資源を上手にやりくりすることで地域の足を確保して持続可能な公共交通を実現することは、財政面、地域活性化からも大変効果的であると考えますが、社会資源の活用の検討に至った背景とはどのようなものでしょうかお伺いします。また、社会資源の活用によるバス路線網の再整備の可能性はどのようなものでしょうかお伺いします。

(3) 「社会資源の活用」に向けた社会実験 ①必要性の認識 ②課題と今後の方向性

公共交通網の再整備を実現させるために検討している社会資源を活用については、持続可能なものなのかどうか、本格導入前に社会実験をする必要であると考えますが、その必要性についてどのように認識しているのでしょうかお伺いします。また、社会資源の活用に向けた社会実験を行う際、受益者負担や住民への説明などが必要であると考えますが、どのような課題があり、その課題を乗り越えるためにどのような対策を考えているのでしょうかお伺いします。さらに、この社会実験は、地域公共交通網形成計画の策定前に検証して、計画への反映を検討すべきと考えますが、今後の予定はどのようなになっているのでしょうかお伺いします。

「上藤沢・林・宮寺間新設道路整備事業について」

藤沢中央通り線と国道 463 号バイパスより南西方面へ延長して、藤沢と宮寺をひとつ道路でつなぐ計画のいわゆる上藤沢・林・宮寺間新設道路整備事業については、平成 9 年から提案がされており入間市のまちづくり全体においても大変重要な道路と位置づけられてきました。また、関係する所沢市との間でも協議が重ねられ、基本合意に至っております。当道路整備事業についてはこの間、関係両市の先輩議員から、その進捗について一般質問等で進捗状況の確認や一日も早い完成が要望されてきている経緯もございます。

1. 期待される効果

当道路整備事業が提案をされはじめた平成 9 年から今日に至るまで、様々な社会的な背景も変化してきています。そこで改めて、当道路整備事業により期待される効果をどのように考えているのでしょうかお伺いします。また、安全な通学路の確保、交通渋滞の解消、買い物難民・弱者対策、新たな公共交通網の整備、そして人口減少対策など本市が現在抱えている課題の解決に向けて効果的であると考えますがいかがでしょうかお伺いします。

2. 現在までの進捗状況

現在までに、具体的にどのような動きになっており、どのような協議が重ねられてきているのでしょうか。また、平成 27 年度においてはどのような事業が予定されているのでしょうかお伺いします。（計画の見直しによる幅員、道路関係の設計、道路用地の測量等の修正の状況等も含む）

3. 関係両市の連携状況

当道路整備事業は、関係両市である入間市と所沢市との共同事業であり、両市での連携が必要不可欠であります。そこで、これまでの連携状況はどのようなもので、今後も定期的に協議をしていながら進めていくのでしょうか。また、住民説明会や警察、埼玉県をはじめとする関係機関との交渉においても関係両市で一体的に進めていくべきであると考えますがいかがでしょうかお伺いします。

4. 課題と今後の予定

当道路整備事業を実現するにあたりどのような課題があり、その課題を乗り越えるためにどのような対策を考えているのでしょうかお伺いします。（住民との合意形成、予算に関する県との交渉、その他）また、今後の予定はどのようになっているのでしょうかお伺いします。